

第17回 いずみ愛と平和のコンサート

今回で17回目となる「いずみ愛と平和のコンサート」が2月22日にコミセン多目的ホールで開かれました。参加者(約300名)の感想を紹介します。

第1部(演奏)

・初めてマリンバは聞き

ましたが、とてもきれいな音色でよかったです。
・マリンバの演奏を聞く機会はあまりないので、いろんな音色を聴くことができてよかったです。
曲目もバラエティーが豊かで、ピアノとのコラボをたのしませて頂きました。



第2部(合唱)

・マリンバアンサンブルは楽しかった。私は足を見とれてました。右に左に、優雅に動く足に感心しました。また、花火の火の粉が飛び散る様子を思い浮かべました。

・映像が目につかび、とても心に染みしました。飼育係、子どもたちそれぞれの思いが伝わりました。いろいろな所で歌っていただきたいです。
・とても感動しました。皆様が一生懸命歌われている様子から、平和を願う気持ちがひしひしと伝わり、私たち一人一人が平和を守ることが大事だと思いました。
・世の中がまた元に戻っていきそうで不安ですが、こんな素晴らしい行動が続けてくれる人がいることに、少し安心。企画はともよかったです。涙が出そうでした。



2015年度 新教育フェスタ
4月5日(日) 10時 和泉コミセン
「学びでつながる子どもたち②」

来年度の新教育フェスタの講師は、吹田市の小学校に勤務されている、川淵和美先生に決まりました。川淵さんは新任6年目の青年教師です。教員のサークルなどで学んだことをいかし、子どもたちが希望を見いだせる授業がしたいと日々奮闘されている実践の一部を紹介します。

5年生を担当した時、親睦行事で親子討論会を行った。アンケートをとり、子どもたちとテーマを考えた。「子ども対親」のような、悪口を言い合う討論会では意味がない。互いにさまざまな考えを知り、また新たな考え方を見つけていく場にしよと伝えた。

子どもたちが決めたテーマは「親は、厳しい方がいいか、甘い方がいいか」だった。

討論会当日、「勉強は、甘いとぶざけたり将来困ったりするから、厳しくていい」という子。「人に言われてやるのは身に付かない。勉強は強制じゃない」と甘い派の子。すると親からは「今思つて、厳しく教えられて身に付いたことがあるよ」という意見が出た。

甘い派の子は「確かに根っここの部分は厳しい方がいい。でもルールばかりでなく、自主性にもまかせてほしい」と反論。それには「まかせっぱなしだと、うまくいかなくて困ったりつらい思いをしたりするのはという親心から」との意見が。そこに、穏やかで何でもよくできる碧人

おとなは厳しい方がいいか

が、真剣な顔で「失敗も学びだから見守ってほしい。自主性にまかせてくれた方が、やる気が出るし自分の力になる」と発言した。

翌日の通信で、子どもの感想とともに、親から届いた感想も紹介した。「迷いながら悩みながらですが、もう少し子どもにまかせてみようかなと思う」。どの親も「もっとまかせてほしい」という子どもたちの成長ぶりに驚いていた。

子育てとは、何か能力を身に付けさせてやることばかりでなく、子どもの育ちを信じて見守ることが大切だ。そうわかってはいても、追い立てられる日々の中で、おとなはつい待てずに先回りしてしまう。

でもこんなひとときにハッとさせられる。教育とはすぐに答えや成果が出るものではないことをあらためて胸に刻み、ともに子どもたちを見守っていくことが確かめられる。そんな場が、親との教育の協同をつくる大事な営みだと思っている。(川淵 和美)